

かえる倶楽部タイムズ

特集「脳腫瘍の診断と治療（その4）：転移性脳腫瘍」

- 脳腫瘍とは脳周囲および頭蓋内に発生する腫瘍全般を示し、その種類と発生頻度は図1のとおりです。

脳から発生する原発性脳腫瘍と他臓器の癌が転移する転移性脳腫瘍に分けられますが、**今回は癌患者の10-20%に発症する転移性脳腫瘍を取り上げます。**

- 原発巣としては肺癌が最も多く、次いで乳癌、大腸癌、腎癌の順となります(図2)。転移した部位に応じて様々な症状が出現し、精度の高いMRIをすると単発より多発のもののほうが多いといわれています。

- 以前は転移性脳腫瘍が発見されると、有効な治療法がないために終末期医療に切り替えられた時代もありました。しかし、現在は様々な治療法が開発されたため脳転移が原因でなくなる方は、脳転移が発見された方の20%未満と大きく改善しています。

- 治療はまず定位放射線治療を検討しますが、大きさ3cmくらいが限界です(図3)。3cmを超えるものは手術による摘出が必要になります。また、多発性の場合(5～10個以上)は全脳照射を考慮しますが、正常脳に対する障害(認知症によるQOL低下)があるので、できれば全脳照射は避けるようになってきました。
当科においては、原発巣のコントロールや全身状態に応じた適切な治療を提案しています。

- 2024年4月から当院放射線治療科にて限局性固形悪性腫瘍に対するIMRT(強度変調放射線治療)や転移性脳腫瘍に対する定位放射線治療が可能となりましたので、定位放射線治療が必要とされる場合には放射線治療科へご紹介して実施させていただきます。

- 先生方のご施設におかれまして転移性脳腫瘍が発見された患者さまに対しては、地域連携室へご用命いただければ脳神経外科外来担当医が対応させていただきます。

【連絡先】 平日 8:30～17:00、土曜日 8:30～12:00
地域医療連携室 (電話)06-7501-1406

上記以外の時間帯は、代表電話 06-6458-5821
へご連絡下さい。

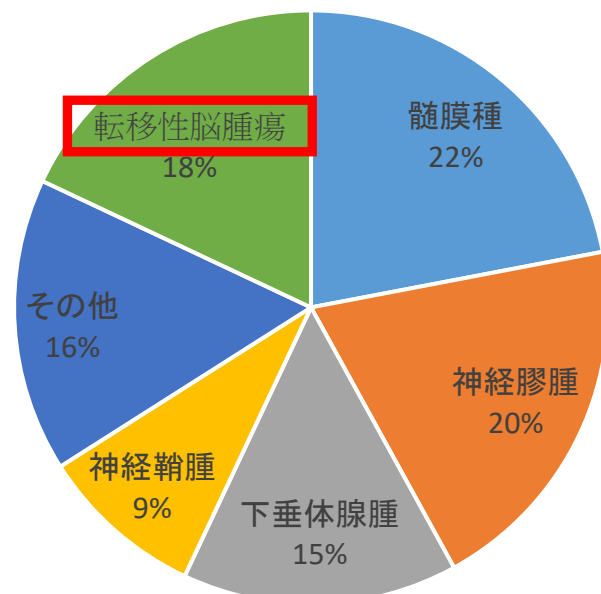


図1: 脳腫瘍の種類と発生頻度

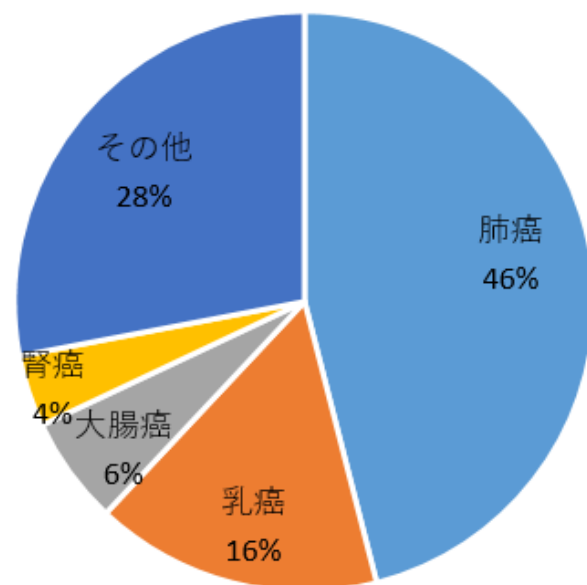


図2: 転移性脳腫瘍の原発巣の頻度

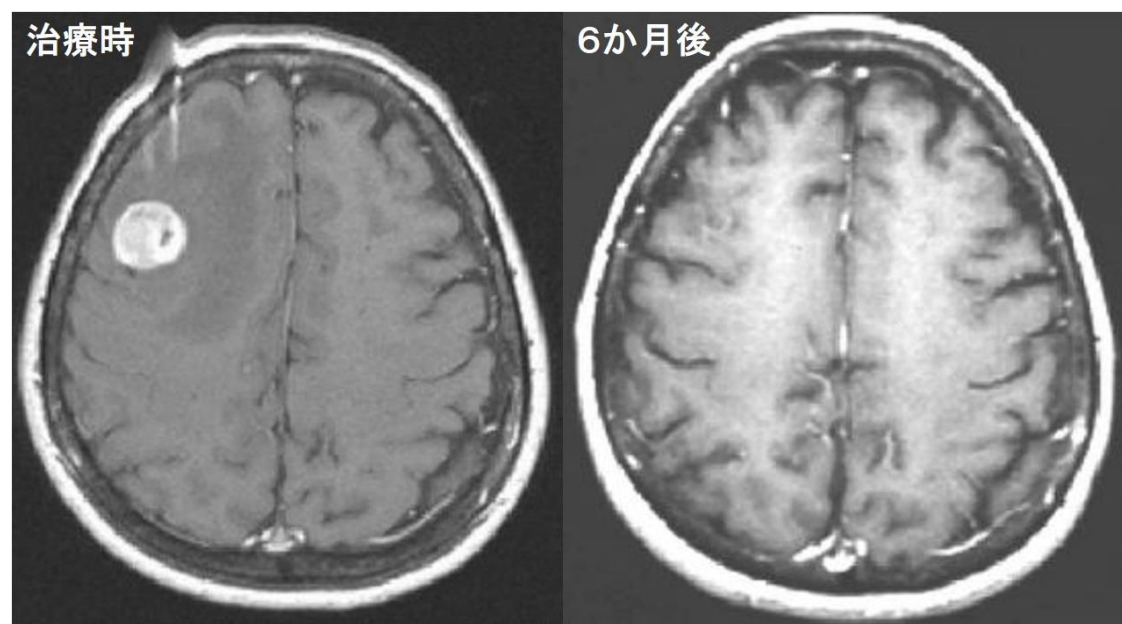


図3: 肺癌原発の転移性脳腫瘍に定位放射線治療施行

関西電力病院
脳神経外科
部長 中島 英樹

日本脳神経外科学会 専門医・指導医

日本脳卒中学会 専門医・指導医

日本脳卒中の外科学会 技術指導医

日本脳神経外科学会近畿支部 学術評議員

